

ファミリー交響楽 コンサート

指揮：山崎 滋

管弦楽：市川交響楽団

2007

平成19年12月2日(日)

午後1時30分開場 午後2時開演

市川市文化会館大ホール

主催：市川市 市川交響楽団協会

後援：千葉交響楽団協会

協力：ヤマザキ製パン(株)

本日のプログラム

プロコフィエフ／バレエ音楽『シンデレラ』

1. 導入部（序曲）
2. ショールのステップ（パ・ド・シャ）
3. 仙女のおばあさんと冬の精
4. 舞踏会へ行くシンデレラ
5. シンデレラのワルツ～真夜中
6. ギャロップ（3つのギャロップ）
7. 終曲 愛をこめて（アモローソ）

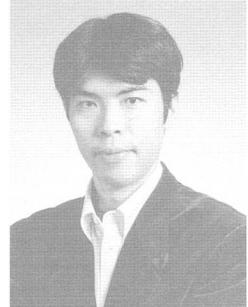
*

チャイコフスキー／交響曲第5番

ナレーター

永井 誠（ながい・まこと）

市川市生まれで現在も市川市高石神に在住。学習院大学在学中に文学座付属演劇研究所にて研鑽を積む。昂演劇学校を経て、平成7年より劇団昂（すばる）に在籍。俳優として多くの舞台公演に出演するほか、CM出演、洋画の吹替え、アニメの声優など幅広い活動を行っている。



指揮

山崎 滋（やまざき・しげる）

東京生まれ。東京芸術大学指揮科で、金子 登、佐藤功太郎両氏に師事。また、ピアノを村山信子、竹尾聰子、ヴァイオリンを山岡耕作、スコアリーディングをピエイグ＝ロジェ、チェンバロをD.ヘルマンの各氏に師事。在学中より二期会オペラの合唱指揮や副指揮者として活動を始め、小澤征爾、若杉 弘氏らのアシスタントを務める。

新国立劇場（オペラハウス）の開場に伴いバイロイト音楽祭に派遣され、N.バラッチュ氏に師事。同劇場の開場記念公演「ローエングリン」では同氏のアシスタントを務める。

市川交響楽団協会加盟団体との付き合いも長く、市響ジュニアオーケストラへの指導は25年を超えるほか、市川混声合唱団、行徳混声合唱団の指揮者を務めている。

現在、新国立劇場オペラスタッフとして活動。日本指揮者協会会員。



管弦楽

市川交響楽団（いちかわこうきょうがくだん）

平成18年に創立55周年を迎えたアマチュアとしては全国有数の伝統を持つオーケストラ。

メンバーは現在100余名で年齢構成は20代から70代までの幅広い層にわたり、職業も会社員、教員、主婦など多彩。地元市川市での演奏会を中心に全国各地での文化行事やオーケストラ・フェスティバル等にもしばしば招かれ演奏を披露している。また、著名な音楽家との共演も数多く経験しているほか、特に地元ゆかりの音楽家との共演にも力を注ぎ、地域の音楽芸術の振興に多大な貢献をしている。

市川交響楽団は市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、行徳混声合唱団、市響ジュニアオーケストラの各団体とで構成する市川交響楽団協会の中核として“クラシック音楽をより多くの市民に楽しんでもらおう”をモットーに常に積極的な活動を展開している。

プロコフィエフ／バレエ音楽『シンデレラ』

「シンデレラ」と聞いて皆さんは何を思い浮かべますか？

きっと多くの方が思い浮かべるのがディズニープリンセスの1人としてのシンデレラでしょう。ウォルト・ディズニーの『シンデレラ』には「ビビディ・バビディ・ブー」や「これが恋かしら」などの名曲が一杯なのですが、今回はちょっと違います。50代前後の方々には懐かしいユーミンの「シンデレラ・エクスプレス」でもないです。本日市響がお届けするのはプロコフィエフのバレエ音楽『シンデレラ』のナレーションつきハイライトです。

作曲者のプロコフィエフは今から116年前に現在のウクライナに生まれたソヴィエト社会主义共和国連邦を代表する作曲家で名ピアニストでした。ソ連では政治や言論だけでなく芸術の分野にも当局の意に沿わないものは弾圧された時代があり、長い海外生活のちソ連に戻ったプロコフィエフも、同時代のショスタコーヴィッヂやハチャトゥリアンなどと同様、社会主義リアリズムに即した作風の曲を多く残しています。

代表作にはなんといっても『ピーターと狼』ですね。ほかには初期の傑作である古典交響曲、歌劇では『三つのオレンジへの恋』、バレエ音楽では市響も1999年にやった『ロメオとジュリエット』が有名です。

物語は「シンデレラ・ストーリー」という言葉があるようにすでにみなさんご存知でしょうし、名ナレーターの永井誠さんがご案内致しますのでナレーションから光景を目に浮かべ、音楽からダンサーがどのように踊っているのかを想像しつつお楽しみください。内容がディズニーのそれとは少し違いますのでそこもお楽しみに。

チャイコフスキイ／交響曲第5番

「交響曲第5番」と聞いて皆さんは何を思い浮かべますか？

きっと多くの方が思い浮かべるのがベートーヴェンの交響曲第5番『運命』でしょう。ベートーヴェンの運命交響曲は名実共に最高の交響曲で魅力が一杯なのですが、今回はちょっと違います。本日市響がお届けするのはチャイコフスキイの交響曲第5番です。

この曲は第5番というほかにもベートーヴェンの運命交響曲と類似

している点がみられますので紹介いたします。まず冒頭にクラリネットで暗く演奏されるモティーフが「運命の動機」と呼ばれています。それはこの曲全体を支配するかのように、各楽章にそれぞれ異なる性格で印象的に現れ、1つのモティーフが全曲を通して使われています。加えて曲全体の楽章構成とキャラクターがベートーヴェンのそれとともに似通っていて、「闘争から勝利へ」といった起承転結展開になっている点があります。映画『ロード・オブ・ザ・リング』にあるような四つの元型（主権・戦士・恋人・魔法使い）理論で詳しくご説明いたしましょう。第1楽章は戦士です。「運命の動機」のイントロの後、8分の6拍子によるリズムは自らの運命に立ち向かうさまを想像してみてください。剣と剣が激しくぶつかり合うようなシーンも見えてくるでしょう。第2楽章は恋人。冒頭のホルン・ソロのメロディをはじめロマン的なエネルギーにあふれています。第3楽章はエレガントな中に時折魔法使いが現れます。音楽の自然な変化と展開はあたかもバレエの1シーンを見ているかのようです。そして最後の第4楽章は主権。長めのイントロはとても高貴な王子のようですし、最後はすべてを支配する王が出現し、自らの勝利を高らかに歌い上げるかのようなエンディングでしめくくられます。

チャイコフスキイは今から167年前にロシアに生まれました。当時ロシアでは5人組とよばれる国民学派が盛んに活動していましたが、チャイコフスキイは5人組よりロマン的でヨーロッパ寄りの作風を持っています。この曲は48歳の時に約4ヶ月間で書かれたものです。

代表作としては若き頃の名作ピアノ協奏曲第1番がクラシックファンならずとも誰もが知っているイントロで有名です。また3大バレエと呼ばれる『白鳥の湖』『眠りの森の美女』『くるみ割り人形』の美しいメロディとサウンドは私たちを虜にします。また『悲愴』という呼び名のつく第6番の交響曲は胸に刺さるような鋭い音楽表現を持ち、初演のわずか9日後にチャイコフスキイはコレラを原因に急死してしまうという事実も併せて聴く人に大きなショックをあたえるでしょう。蛇足ですが一時彼の死にまつわる「チャイコフスキイ私的処刑説」なるものがありましたが、学術的研究の結果では根も葉もない出鱈目だそうです。

本日の出演者

【コンサートマスター】	【第二ヴァイオリン】	小名康仁	上村啓介	【クラリネット】	【ホルン】	【チューバ】
立田祥子	安藤 摂津子	鈴木亜矢子	神代順子	井垣貴嗣	勝田裕之	渡邊鉄雅
	伊藤枝里子	高野重樹	菊池克彦	一瀬直美	近藤利昭	
【第一ヴァイオリン】	大野道夫	奈良林弘子	小林真弓	時田雄	潮見恵子	【打楽器】
石本恵理	若林繁	星乗昭	花井さと実	半藤嗣人	潮見尚宏	今里詩織
鎌田真貴	村上信乃	岩田理人	松村由美子	林田朋子	林田朋子	大澤加奈
井田ひとみ	佐分利幸江	【チェロ】	【フルート】	【バスクラリネット】		山内正晴
上田佳津子	戸川悠	岩田理人	大坂かおり	八木良子	【トランペット】	時田裕
大橋一郎	富田八江子	倉澤倫子	木村眞諭紀		安藤宣明	春田美穂子
亀井玲子	仁井理絵	小松高明	佐藤洋行	【ファゴット】	酒井崇行	和田英恵
小林吉範	久田しげ子	中村公一	篠原梨恵	伊吹直子	中川聰	【ピアノ】
鈴木薫	溝田範子	野中能久		遠藤由紀子		鈴木珠美
秦一宜	村上葉子	日澤優	【オーボエ】	菅原齊	【トロンボーン】	
松岡寛親	吉岡一郎	福原耕二	二村直子		新井恵美	【ハープ】
武藤敦子			本間広樹	【コントラファゴット】	上田浩平	小橋ちひろ
望月聖仁	【ピオラ】	【コントラバス】		金坂哲	坂田圭	
	内田綾美	荒木夏奈	【コールアングレ】		佐野義人	
	大橋かおる	池田和正	太田悦子		萩崎裕至	